

邦楽現代

PRO

MUSICA

NIPPONIA

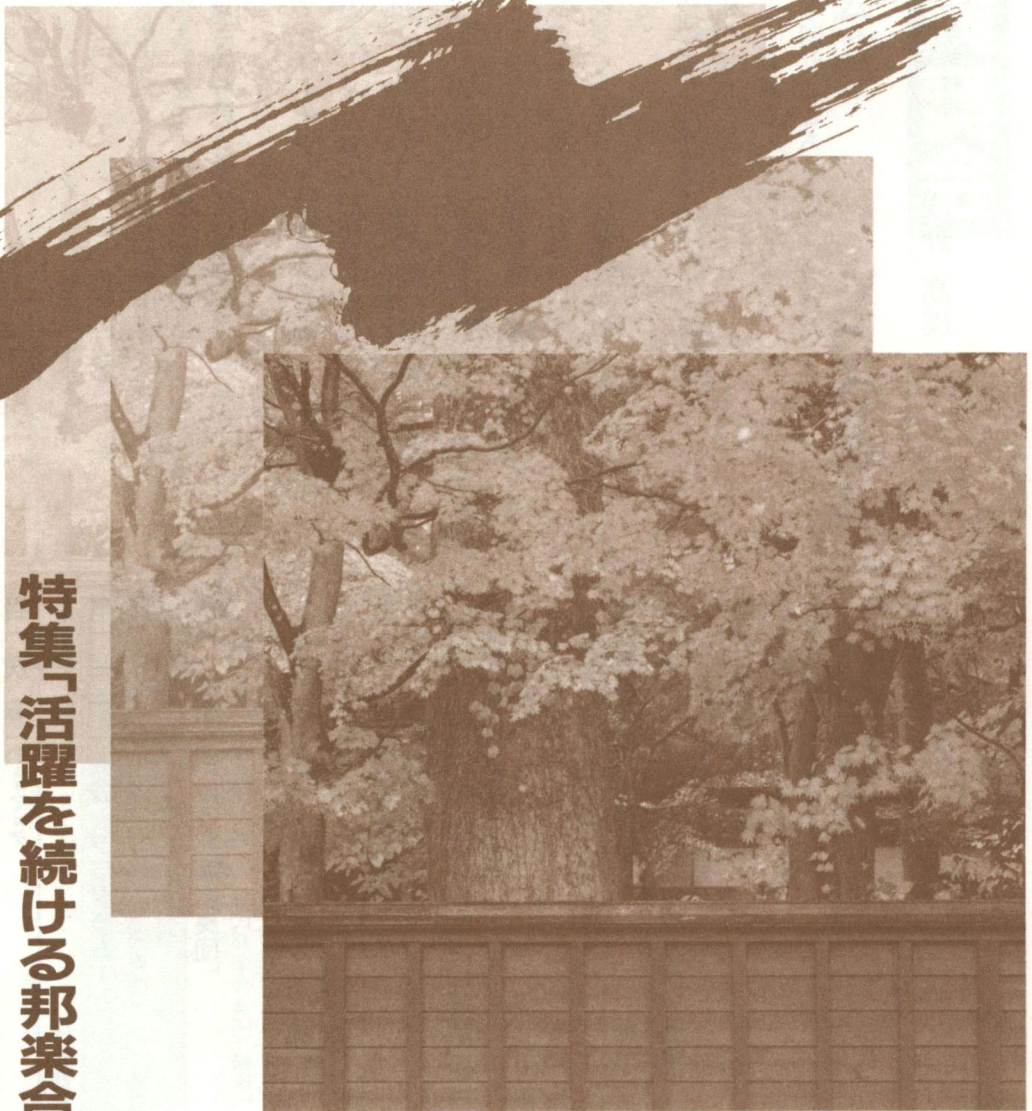
芸術祭協賛公演

第25号 1990年

第116回定期演奏会

25 秋

プログラム



特集「活躍を続ける邦楽合奏団」
 らじかる・しりーず「ズバリ発言！」

武谷三男

しらすべ

西洋音楽の世界において、大変古い歴史をもつファゴットを私が行うようになってから、はや四分の一世紀以上(28年)も過ぎたことになる。

その間、常に新しいものへのアプローチやこの楽器のあらゆる可能性を求めてきたつもりだが、それはこの楽器の原点をみつめ、みつげだすことであるという悟りにも似た境地を感じずにはいられない。

最近、相沢昭八郎氏(音楽評論家)のとりもつご縁で、田村拓男氏の編み出す日本の打楽器とファゴットの合奏を楽しんでいる。それはまた日本の伝統や邦楽器の原点との出会いでもあり、私にとってまた新しい発見である。この興奮と勇気づけはかけがえのないものである。

「伝統楽器で現代に生きる自分たちの音楽を造ろう」という果敢な日本音楽集団の存在。歴史の重さ、深さ、アプローチの方向・考え方など、私の志す道と相通じるものがある。

東西の交流を願い、いつまでも同じところでありつづけたいと願うものである。

ファゴット奏者
桐朋学園大学助教

浅野 高瑛

目次 ● Contents

しらすべ

浅野高瑛

1

第111回定期演奏会—プログラム—

- 一、古民舞曲によるパラフレーズより「前奏曲」 二、 萌春
三、 鄂曲 賢多々良 四、 巫幻楽

2

特集「活躍を続ける邦楽合奏団」

- 星組合奏団、合奏団たあく、現代邦楽合奏団「織座」、
まどか、グループ・みずほ、日本音楽グループ「PAL」、
名邦団、和楽器集団ぐるーぷ、樹、合奏団「鼎」

5

らじかる・しりーず 《ズバリ発言》 武谷三男

11

モービル音楽賞受賞決定ノ おめでとう長沢さん

紫綬褒章受章を祝う集い(8/15)開かれる

13

日本音楽集団演奏会から

- 第114回定期 石田一志
第115回定期 富樫 康
邦楽器による日米交流コンサート

15

現代邦楽事情—その8—

田中隆文
サヴォンリンナオペラフェスティバル'90 宮越圭子
三木稔作曲《春琴抄》公演報告

17

小さな空間大きな出会い

工藤哲子
日本音楽集団の主な活動記録
日本音楽集団の今後の予定
I O C 総会の音楽を担当
第3回子ども邦楽まつり

20

日本音楽集団メンバー表

お知らせ・編集後記

26

21

第116回定期演奏会

文化庁芸術祭協賛公演

プログラム

一、古代舞曲による。バラフレーズより

前奏曲

三木 稔 作曲

〔笛〕 西川 浩平

〔尺八Ⅰ〕 藤崎 重康・竹井 誠

〔尺八Ⅱ〕 米澤 浩・添川 浩史

〔三味線〕 太田 幸子・工藤 哲子

〔箏Ⅰ〕 吉村 七重・島崎 春美

〔箏Ⅱ〕 花房はるえ・熊沢栄利子

〔十七絃〕 内藤 洋子・山田 明美

〔打楽器〕 細谷 一郎

〔指揮〕 田村 拓男

解説

〔古代舞曲によるバラフレーズ〕は全5曲から成立している。NHKの委嘱により作曲され、集団での初演は1966年の第4回定期。以来集団の重要なレパートリーとして数多く演奏されている。また5曲の内2曲はソプラノ・ヴォーカリーズが加わるため、今までに多くのゲストを迎えてバラエティーに富んだ共演を楽しんできた。

この「前奏曲」はそんなバラフレーズの「顔」でもあり、単独で演奏する機会も多い。当初はシングルの編成によるスリリングで、かつ奔放なアンサンブルというも

のであったが、最近ではダイナミックで重厚なサウンドを目指す傾向もある。実際、指揮に松尾葉子氏を迎えた時(第96回定期――1986年秋)、箏・尺八群はトリプル以上の編成で演奏した。

『儀式的な物を感じさせる荘厳な響きを持った導入で、すべてのフレーズは暗示的に進む』解説文としてはこういうことになるが、プログラムに於ける「前奏曲」の役割を言い得ているであろう。

(竹井 誠)

二、萌春

長沢勝俊 作曲

〔尺八〕宮田耕八朗
〔箏〕白根きぬ子

「萌春」の初演は、1977年11月10日、この都市センターホールでのステージでした。初演という大役のプレッシャーと戦い乍ら夢中で弾いたことを覚えております。その後、放送・レコーディング・国内・国外でのステージを重ねた「萌春」との思い出はつきません。

「萌春」が音楽集団の中から生まれて20年になろうとしています。いまや尺八と箏の二重奏の名曲として多くの人々に愛され、沢山の演奏家によって演奏されている事は、団員としてまことにうれいことです。音楽集団の活動の大きな成果の一つではないでしょうか。

今年の6月、カナダからシヌークトリオ（ピアノ・チェロ・フルート）が来日しました。その関西公演（ペガホール）で、フルート奏者スーザン・ホープナーとこの

曲を演奏致しました。彼女はカナダのトロントで「萌春」を共演して以来の友人です。日本で再び共演出来たことは大きな感激でした。アメリカ・イギリスに滞在中も、何人かのフルート奏者とこの曲を演奏しましたが、日本の情感を持ちながら何の異和感もなく彼等に受け入れられる「萌春」は、まさに世界に通用する名曲だと思えます。国境をこえ、時代をこえてこの曲は永久に生きつづけてゆくことでしょう。

今回は初演の時と同じステージで宮田耕八朗氏との共演です。これはあまり知られていないことなのですが、萌春という題名、実は宮田氏が名付親なのです。私達にとって今回のステージは、大きく成長して帰って来た我子を迎える親の心境というところかもしれません。

（白根きぬ子）

三、郢曲 鬢多々良

伊福部昭 作曲

〔篠笛Ⅰ〕藤崎重康
〔篠笛Ⅱ〕西川浩平
〔箏Ⅲ〕熊沢栄利子

〔箏Ⅰ〕木村玲子
〔箏Ⅱ〕花房はるえ
〔能管〕竹井誠

〔大鼓〕細谷一郎
〔楽太鼓〕前田文男
〔筑前琵琶〕田原順子
〔薩摩琵琶〕半田淳子

〔十七絃〕内藤洋子
〔指揮〕田村拓男

四、 巫ふげんらく幻らんく楽

(委嘱・初演)

西村 朗 作曲

1973年秋の芸術祭主催公演「日本音楽集団演奏会」のために文化庁から委嘱を受けて書かれた作品で、伊福部昭氏にとっては邦楽器を用いた最初の作品である。伊福部昭氏(1914-)は我が国作曲界の長老的存在であるが、その一貫して民族主義的な姿勢を保つ作品は、戦前から国際的にも高い評価を得ており、その創作力は近年も全く衰えを見せていない。

「巫曲(えいきょく)」とは日本の古代中世の各種の歌いもの総称であり、「鬘多々良(びんたたら)」はその一曲の名で、豊明節会(とよのあかりのせちえ)という平安時代の宮廷行事(盛大な饗宴)の中で歌われた曲である。作曲者によれば、邦楽器を用いるに当たって江戸時代以降の近世邦楽を考えると旋律面でもリズム面でも制約を感じるので、時代を遡って日本と唐天竺の諸要素が混じった自由な舞の音楽を想定して、これを曲名とした、ということである。

曲は大まかに三つの部分に分けられる。第一部分は箏Iのソロで始まって次第に箏類の合奏となり、やがて琵琶と管楽器類も順次に加わる。弦楽器類が細かいリズムを刻みつつオスティナート風な合奏を続け、それに乗って管楽器類は大陸風の旋律を奏する。全体として動的な部分である。

第二部分是对称的に静的な部分で、各楽器が順次に交替して静かな雅楽風の旋律を歌い、打楽器が参加して、舞楽風のゆったりとした力強いリズムを打ち加える。

第三部分は再び動的な部分。ツナギの部分に続いて躍動的なリズム感に変わり、弦楽器類の合奏が続く。途中から小鼓の鮮やかな打音が入ると、誘われるように管楽器類が次々に吹き始めて全合奏になり、次第に高潮して最後は乱舞を思わせるような最高潮に至る。

〔第6回「現代日本音楽の展開」—国立劇場第54回邦楽公演—のプログラム解説(上 参郷祐康)より抜粋〕

- 〔笙〕 吉田弘美(客演)・石川高(客演)・村岡健一郎(客演)
- 〔竈笛〕 竹井 誠・西原貴子・平井裕子(客演)
- 〔琵琶〕 半田淳子・坂田美子・山田まゆ美
- 〔箏 III〕 木村玲子
- 〔箏 IV〕 島崎 春美
- 〔打楽器〕 細谷 一郎・前田文男・白杵美智代
- 〔箏 I〕 吉村七重
- 〔箏 II〕 花房はるえ
- 〔尺八〕 三橋貴風・米澤 浩・添川 浩史
- 〔十七絃〕 内藤洋子・佐藤里美・山田明美
- 〔指揮〕 西村 朗(客演)
- 〔箏 箎〕 西原裕二・中村仁美(客演)・田淵勝彦(客演)

初演にあたって

天台の虚階(こかい)や御神楽の縫合(よりあい)の無音の秘法、雅楽の残楽(のこりがく)などには、発せられることのない響きの世界がある。沈黙が導く、響きを越えた、より高次の響きを聴こうとする耳。真言の空海はいう、「五大にみな響あり。十界に言語を具す。六塵ことごとく文字なり。法身はこれ実相なり。(声字実相義)」と。五大は響きにみち、宇宙は無上なる妙音で私をつつんでいる。

「巫幻楽」は、万物を象徴する響きを宿した種々の楽器の鳴動と沈黙によって成っている。ここにおいて鳴りひびく音響はことごとく幻である。私は沈黙をこそ聴かねばならない。五大にみちた妙音につらなる沈黙を。幻の巫楽、「巫幻楽」。宇宙と神々ともにあつた古代の耳は、やはりそのように幻の響きとして巫楽を求め、それが導く清浄無限なる沈黙と静寂の中に、妙音とともに現われる神をみたものではなかったか。

(西村 朗)

特

集

「活躍を続ける邦楽合奏団」

邦楽器による新しい形の合奏団を組んで活動を続けている団体がいくつもある。いわゆる現代邦楽ブームに乗って生れた団体の浮沈劇もあれば、ブームを乗りこえたところで、いくつもの困難を克服しながら、地道に活動を続けているところもある。中には創立して10年を越え、20年にもなろうとする合奏団もあれば、新たな気持ちで再スタートラインに着いたところもある。

彼らは自主的に、仲間を信じ合い、協力しあいながら、新しい音楽ゾーンの確立を目指しているといえる。

演奏曲へのアプローチも、古典を念頭におきながら、新しい合奏曲が主流に組まれている。それぞれが仕事をもちながら、邦楽合奏団にかけている彼らの情熱とエネルギーは、日本音楽界発展の支えになっているともいえる。今回、9団体からの報告を頂いて特集を組んでみた。

星組合奏団

合奏団たあく

現代邦楽合奏団「織座」

まどか

グループ・みずほ

日本音楽グループ「PAL」

名邦団（名古屋邦楽集団）

和楽器集団ぐるーぶ「樹」

合奏団「鼎」

（順不同）

- 1、団体の名称
- 2、結成年月
- 3、事務所所在地
- イ、住所
- ロ、氏名
- ハ、電話
- 4、代表者氏名
- 5、団員数
- 6、楽器編成
- 7、その他

星組合奏団

1、星組合奏団

2、1976年10月

相模大野教室1981年4月

3、イ、千28神奈川県相模原市豊

町1030

口、永井葉純

ハ、0427-61-9865

(福島)相模大野教室

03-397-0429

(小川) 東京教室

4、永井葉純

5、東京教室 12

相模大野教室 12

6、東京教室

笛1、尺八2、琵琶1、胡弓

1、箏5、打楽器2

相模大野教室

笛1、三味線3、箏7、打楽器1

7、指揮 加納田貴夫(東京芸術

大学指揮科卒)

一、より良い音楽を

一、技術の向上を目指し

一、永く

十四年前、発足当時、これに

「楽しみながら」の四つの柱を立

てて出発しました。時と共に、

若いエネルギーは何度かの分裂

を繰り返して成長して来ました。

ある時、「楽しみながら」の一項

目をあえて外し、それと同時に、



真に音楽芸術を追求する合奏団
としました。

この十四年間に、「星組合奏

団」は、長沢作品、三木作品、

伊福部昭作品、佐藤敏直作品の

ほとんどの曲を演奏して来まし

た。十年目を迎えました年は、

ロスアンゼルスの日米劇場にて

「二つの舞曲」、「巨火」並びに日

系交響楽団との共演を実現し、

星組合奏団編曲委嘱作品「和讃

交響曲」を演奏し、第一回海外

演奏会を行ない、十年目の喜び

を分かち合いました。

これからも、再度これらの作

品、又新しい名曲に取り組み、

合奏団として充実させて行く
と同時に、新しい名曲をこの世に
送り出す為の努力もしていき
いと考えて居ります。
この様な主旨に賛同の方々の
参加をお待ちしています。

合奏団 たあく

1、合奏団 たあく

2、1978年4月

3、イ、千356川越市砂98-3-20

2

口、水持邦雄

ハ、0492-42-3911

4、水持邦雄

5、17

6、笛1、尺八6、三味線3、箏

打楽器2(その他曲によって

いろいろ変える)

我が合奏団「たあく」には二

つの財産があります。

一つは、「楽しく誠実に」音楽

にとり組もうとする団員ひとり

ひとりの姿勢です。

「みんなで楽しく活動してる姿

が印象に残りました」

「日本の楽器のひびきのすばら

しさを知ったつもりです」

「皆さんが現代邦楽に対して非

常に意欲的にとりくんでいらつ

しやる姿勢が伝わってきて感銘
を受けました」
「とてもとても楽しいコンサ
ーでした」

これは、先日(九月一日)ル
ーテル市ヶ谷で行ったコンサ
ートのアンケートに頂いた御意見



の一部ですが、私達の気持ち
が多少なりとも伝わったのでは
ないかと感じています。

もう一つは、石川憲弘さんに

指導をお願いしていることです。

NHK邦楽技能者育成会特別講

師でもある氏は、いつも私達に、

合奏のすばらしさや邦楽器の奥

の深さを感じさせて下さいませ

。「たあく」が結成されて十二年

日本音楽集団が演奏されるよう

な現代邦楽の合奏曲にとり組み

年一回のコンサートにその成果

を発表してきました。

一昨年は「ファンタスマゴリ

ア」(ドイツ)「テイメント」、昨年

は「日本の民謡曲」(古代舞曲に

よるパラフレーズ)、今年には「大

津絵幻想」(四季)ダンスコン

セルタントI」を演奏しました。

来年は三木稔作曲「巨火」に初

めて挑戦します。

練習は月二、三回、日本音楽

集団の練習場(京王線笹塚)を

お借りして行っています。経験

や流派は問いません。一人でも

多くの人と、邦楽器による合奏

を楽しんでいきたいと思ってい

ます。そしてこれからも、アマ

チュアだからこそできる、手作

りであたたかいコンサートを開

いていきたいと考えています。

現代邦楽合奏団「織座」

- 1、現代邦楽合奏団「織座」
- 2、1988年5月
- 3、イ、〒134江戸川区清新町一、1-10-206
- 口、土屋雅章
- ハ、03-077-6490
- 4、土屋雅章
- 5、18
- 6、笛1、尺八4、琵琶1、三味線1、箏9、打楽器2
- 7、指揮 稲田康

はじめまして。発足して二年半、まだ若い合奏団「織座」です。現代曲の合奏を通して、技術の向上と音楽の楽しさを味わえる、流派をこえた合奏団を作ろう、という男性団員三名の呼びかけでスタートした織座も今は総勢十八名。当初より邦楽合奏団の指揮に経験豊かな稲田康氏を指揮にむかえ、目下のレパートリーは、「子供のための組曲」「人形風土記」「二つの舞曲」(長沢勝俊)、「デイヴェルテイメント」(佐藤敏直)などですが、今年になって箏・尺八・笛・三味線・琵琶・打楽器と全てのパートを団員で揃える事ができ、更に多くの大編成の曲に意欲的にチャレンジしていこうとしています。



練習は毎月第一・第三日曜の午後、江戸川区清新町コミュニティ会館にて行なっています。清新町サークルまつりに二回参加

横浜でのミニコンサート、昨年夏の第一定期演奏会に続き来る十一月二十三日(祭日)午後二時より清新町コミュニティ会館ホールにて第二定期演奏会を行ないます。曲は「デイヴェルテイメント」他で、現在最後の追い込みにかかっています。私達の合奏団に興味をお持ちになられた方、是非聴きにいらして下さい。

団員構成は女性が男性のほぼ二倍。平均年齢三十代半ば。現代邦楽の経験も〇年〜十数年と幅広く、神奈川県茅ヶ崎から千葉県柏までの広範囲から集まり、勤め人と専業主婦がほぼ同数。中には子育て真最中の団員もあり子供と一緒に練習に参加しています。それを「子供はすぐ大きくなるし、大きくなれば織座の戦力になる」と許容してくれる暖かさも織座の大きな特色で、団の雰囲気の良いと元気の良さで指揮者の統率のもとハードな練習を重ねています。まだ経験の浅い合奏団ですが、他の合奏団とも交流を深めながら、大合奏曲の良さを多くの人達に広めていく活動をすすめていきたいと思えます。どうぞよろしく。

まどか

- 1、まどか
- 2、1988年11月
- 3、イ、〒277千葉県柏市松葉町一、12-9-4
- 口、三本博明
- ハ、0471-333-6473
- 4、三本博明
- 5、11
- 6、笛・尺八3、三味線1、箏6(十三、二十、十七絃)、指揮

1988年11月、柏市松葉町文化祭に田仲間が集まり、出演する。これを機会に合奏団を結成。

1988年12月、北柏の三本氏宅で合奏練習開始。

1989年10月、指揮に関裕文氏を迎える。

1989年11月、柏市松葉町文化祭に出演。琵琶の坂田美子さんを迎え、「子供のための組曲」を演奏。

1991年2月11日、第一定期演奏会を柏市民文化会館小ホールで開催予定。

2年前、昔、合奏したことのある仲間が地域の文化祭を機に集まりました。その打ち上げの席で酔いにまかせて話がまとまり、発足しました。練習よりも、

その後の懇親の方が長く、三本家の奥様の手料理で場が盛り上がり、「まどか」を推進する原動力になっています。



昨年から、定期演奏会を目指して、真面目に練習しよう、という声が高まり、指揮に関裕文氏（東京音大卒、現中学の音楽講師他）をお願いして練習活動を強化してきました。サラリーマン、教員、公務員、専業主婦等皆様々ですが、皆、忙しい中時間をひねり出してがんばっています。

当面は、長沢先生、三木先生の曲をこなしていくのが活動の中心となりますが、活動期間が短いので、レパートリーと言えぬものはまだありません。しかし、関氏が構想を練っている新曲への挑戦も控えており、会員の基礎的な演奏能力に磨きを加えるべくがんばっています。他団体で演奏していたという、昔とった杵柄は、この際無しにして、新鮮な気持ちで取り組みたいと考えています。

当初は「ちばらぎ会」と言っていたように千葉と茨城の境に位置したこの地。メンバーがなかなか増えません。今後も松戸柏近辺に練習場を設定していきますので、近隣の方、ちょっとやってみようかなという方、是非、合奏仲間になって下さい。お待ちしております。

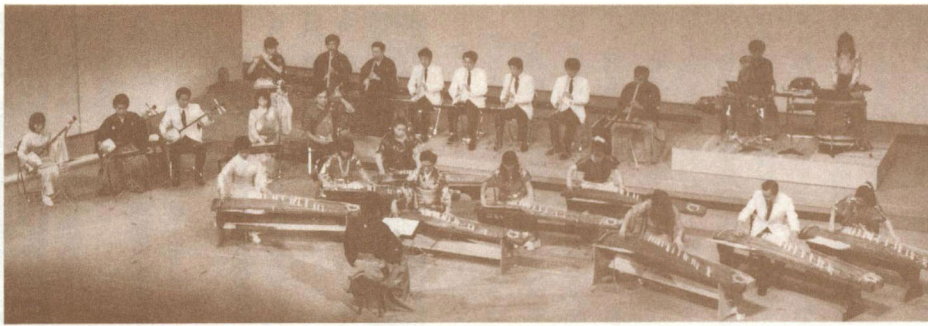
グループ・みずほ

- 1、グループ・みずほ
- 2、1979年10月
- 3、イ、千46愛知県春日井市知多町2-1-44
- 、水野正徳
- ハ、0568131-2775
- 4、水野正徳
- 5、15
- 6、笛1、能管1、笙1、ヒチリキ1、琵琶1、三味線1、箏、打楽器

1979年10月、塚本早苗さん（元日本音楽集団）らの呼びかけで東海三県下から愛好家15名が集まり、合奏団が産声をあげました。翌年、初の公式演奏は東京での第3回日本音楽協会フェスティバルにおいて「飛驒」よせる三つのパラード」に11名が参加しました。'81年には第一回コンサートを行い、三木隆長沢勝俊、佐藤敏直氏らの作品を手掛け、未熟ながらも大きな自信を得て、名古屋邦楽界に新風を吹き込むべく、本格的な和楽器アンサンブルを旨として活動を始めました。

その後、名古屋での定期コンサート、東京や大阪での合奏フェスティバルへの参加、地元社

中へのゲスト出演、各種イベント、親子劇場での演奏、さらには日本舞踊家のリサイタルのための音楽（録音）にも取組み、幅広く活動してきました。また地元作曲家に委嘱して創作曲にも挑戦してきました。



昨年10月、10周年コンサートを終えました。あつという間の10年でしたが、多くの仲間との交流は実り多いものでした。演奏した曲は50曲を超えたでしょうか。

練習場は名古屋・今池の音楽会館で、隔週日曜日の午後、心うきうきとメンバーが集まってきました。10月から長沢氏の「秋の一日」を始め、来年2月の合奏フェスティバルで演奏する予定です。このフェスティバルは「みずほ」が中心となって運営し、地元邦楽界のいろいろな方に自由に参加してもらいます。

今までに日本音楽集団の団員の方々にもゲスト出演していただき、合同演奏も行い素晴らしい体験もしました。

これからも日本音楽集団の活躍を祈りながら、私たちが地元での活動をさらに広げて、和楽器アンサンブルの魅力求めていきます。

これからまた10年、とりあえず頑張ってみます。「グループ・みずほ」の新たな旅立ちにあな、たも参加しませんか。

新生「グループ・みずほ」は実力をいかに発揮したい人たちのオアシスです。

日本音楽グループ「PAL」

- 1、日本音楽グループ「PAL」
- 2、1988年4月
- 3、イ、千45名古屋市中村区名駅5丁目10-7 花車ビル中館516
- 、安福廣子
- ハ、052581-0816
- 4、安福廣子
- 5、10
- 6、笛1、尺八3、三味線（長唄、民謡、地唄）1、箏5、打楽器

フレキシブルな音の創造と調和を求めて、日本音楽グループPALは、1988年4月団員10名で結成しました。平成2年11月迄僅か2年と7ヶ月しか経っておりませんが、'88・7「箏曲育音会」に出演、'88・10「音楽の祭典 アルファ'88」に出演、'89・10・8名古屋市芸術創造センターに於て本格的な第一回公演「オクターム・コンサート」を開催、'90・3・7「芸術劇場・邦楽器の若者達」に出演、'90・3・8岐阜市東海第三幼稚園「邦楽鑑賞会」に出演、'90・7「箏曲育音会」に出演というように、活発なる活動をして来ました。更に来年度（'91）ビッグ・コンサート（4・28・5・8）中国、南

京市、杭州市の招請で、両市に於ての中国公演が決定しております。それに先だつて、公開リ



ハーサルを兼ね「中国公演記念コンサート」を、'91・3・23布池セシリアルホールで開催します。不安と期待と夢が入り混つたなか、団員一同張り切っています。どの演奏者が上手というのではなく、演奏者と観客との心を紡ぐ和音が出来ればと思っております。どんなジャンルの音楽も楽しみ集い、心をいつくしみ、時には心を鎮め、時には心踊らせる音の動きを素直に表現出来る和製オーケストラでありたいと願っております。日本には長沢勝俊先生始め素晴らしい作曲家が多数おられます。作曲家と演奏者の限りなき曲への愛そこから第一歩が始まるものと思えます。

遙かなる天よ！
遙かなる海よ！
遙かなる星よ！
豊穣なる音の輪で
遙かなる響となれ！！
上手く演奏する満足感よりも
深遠なる音楽への希求、無限なる神秘(曲)と出会う素晴らしさを感動する楽団でありたいと思っております。

貴方も夢と希望と憧れを乗せて、煌く銀河へ御一緒しませんか。

名邦団(名古屋邦楽集団)

- 1、名邦団(名古屋邦楽集団)
- 2、1986年3月
- 3、イ、干切、01 愛知県愛知郡日進町岩崎大塚1602
- 4、山本和夫
- 5、9
- 6、笛1、尺八3、その他5(琵琶、三味線、箏、十七絃持替え)

こんにちわ、名邦団です。なにせ名前がスゴイ(ダサイ)ので、邦楽現代に登場するのはお恥しい限りです。発足から5年半、何人も人が出たり入ったりしながら残った今のメンバーは9人。ラテンバンドのギターひきに消防音楽隊の指揮者、レイチャールズの好きな人、ユーミンの好きな人、クロノスの好きな人など、音楽経験も趣味も色々ですが、「邦楽器もいいな、合奏がしたい、名邦団がどこより気楽！」という共通点で結ばれています。邦楽器というと、師匠の所へまず入門して...というのが常ですが、名邦団では、中学生が自分でギターを弾きだすように、笛を琵琶を打楽器を、編曲を楽しんでいます。本当の

音楽の姿ってそういう所にある、んじやないかと思うわけです。



そして不安な時、行き詰った時に講師に助けを求めます。それが名邦団の行き方です。練習は月2回、大編成曲(集団のナンバーが多い)と個々のやりたい曲

(古曲、現代曲、編成も色々)と2本立て。幸い、練習場は昔の保育園まるごと全部借りているので部屋は多く条件抜群です。講師は多方面にわたって色々なことを学ぼうと、尺八、箏、琵琶、指揮の先生以外に、子ども音楽教室の先生にリズムトレーニングをしていただいたり、今は洋楽のアンサンブルトレーナーの方も予定しています。この他に、箏群は自主トレを月一回「絶対上手にしてあげる」と言う陶山清太郎先生のもと、「本気で上手になりたい」と白熱のトレーニングを続けています。

演奏活動は、イベントやパーティのアトラクションなどが多く、昨年は鈴鹿のFLGPの歓迎パーティにも出演。また、ビートルズ25周年ライブには、団長編曲、指揮のイエスタデイを講師の力を借りずに仕上げたこと、チャリティーコンサートで名古屋一との定評の子どもの合唱団と「子供の四季」を演奏したのも良い思い出です。

来年春には、初めて自力のコンサートをします。アマチュアらしく、楽しむハートを忘れないういこう、そう9人で約束しています。

和楽器集団ぐるーぷ「樹」

- 1、和楽器集団ぐるーぷ「樹」
- 2、1972年12月
- 3、イ、〒177呉市焼山東3丁目11

ロ、森岡幸雄

ハ、06663-661-5000

- 4、森岡幸雄

- 5、18

- 6、尺八5、篠笛2、打楽器2、

箏10(十七絃、二十絃)、三絃(中棹、太棹)4(タフリあり)



洋楽の音は水平に歩行する。だが、尺八の音は垂直に、樹のように起こる。——という武満徹氏の言葉に感動して付けた名前です。

昭和40年代の邦楽ブームの中

で、学生邦楽の出身者を中心に

して誕生しました。「流派や既成の団体にとらわれないで、邦楽器による音楽活動を続けたい。

そして、そのすばらしさを多くの人に知ってほしい」という願いは、今も変わっていません。結成以来、18年になります。

その間、18回の自主コンサートの他、ミニコンサートや他団体の企画への参加は25回を数えます。自主コンサートでは、大編成のアンサンブル曲を柱にした構成をしてきました。その主な曲は、人形風土記、デイヴェル

テイメント、複協奏曲、子供のための組曲、ダンスコンセルタント、竜女の玉、子供の四季、秋のコンチェルトなどです。小人数の曲では、各パートごとにひとりずつて、古典から現代邦楽まで幅広く取り上げています。

最近では、いろいろな団体や企画への参加のお誘いが増えてきました。うれしいことです。運営上の係分担はありますが、

全員の合議制で運営しています。また、練習のパートナーはいますが、特定の師匠や指導者を招聘せず、自分たちの意欲を第一義に考えています。ただし、大編成の曲では洋楽の指揮者に

依頼しています。

長年の夢だった海外公演を実現させました。昨年の米国デトロイト市での主催公演では、「子供のための組曲」が特に好評で、その反応の大きさに私たちも感動しました。また、今年、仏国カーン市での文化交流に参加し、大きな成果を得ました。

これからは、依囀曲の依頼やプロ演奏家のリサイタルの企画にも取り組みたいと思っています。そして、夢は、固定席二百程度で音響の優れた「樹」のホールの建設です。

これまで同様、一步一步、着実に歩みをつけていきます。どうぞ御支援ください。

合奏団「鼎」

- 1、合奏団「鼎」
- 2、昭和53年12月
- 3、イ、〒584大阪府富田林市加太

8333Xソンドール青葉

101

ロ、麻植武志

ハ、0723-66-8779

- 4、麻植武志

- 5、12

- 6、尺八4、箏5、三味線2、琵琶1、その他和楽器

昭和53年に、社中の枠を越えて自由に演奏活動を行おうという主旨のもとに結成され、今年で12年目を迎えます。近畿周辺のアマチュア合奏団では老舗と言えるのではないのでしょうか。

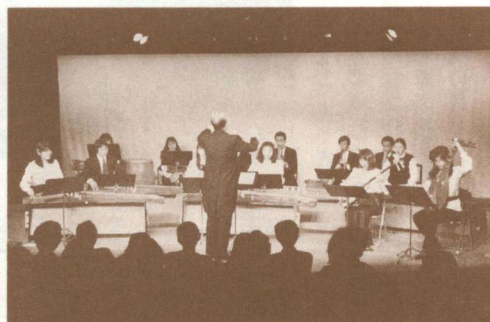
結成当初は、数十人にのぼる極めて大規模な合奏団でしたが、ここ数年、十数人の非常に小回りの利く、お互いに意志の疎通が図りやすい合奏団になってきました。また二十代から四十代まで人数は少ないものの、安定した年齢層で構成されています。結成以来、現代日本音楽を演奏する合奏団として活動してきましたが、最近では現代音楽に限らず古典、新曲の演奏も行うようになってきました。しかし、主たる演奏曲が五線譜の現代邦楽であることは変わりなく、今後もこの方針は守ってゆきたいと思っています。今までの主な活動は、年一回の定期演奏会や名曲鑑賞会、わたぼうしコンサート、ラジオ、テレビ等への出演などですが、現在は、年一回の定期演奏会を目標に置いて年間の練習を進めております。

〔練習の概要〕
隔週日曜日、午後2〜3時間、大合奏練習。

〔過去の演奏曲目〕
子供のための組曲、人形風土記、ダンスコンセルタントI四季、デイヴェルテイメント、大津絵幻想、日本楽器による幻想曲、箏四重奏曲(長沢勝俊)、尺八三重奏曲「鼎」、三つの詩(前田智子)他に委囀曲を含め多数。

〔第12回定期演奏会案内〕
平成3年3月10日吹田メイシアター小ホール午後2時開演、曲目→ダンスコンセルタントII 鳴門秘帖、箏三重奏曲他。入場料千円。

〔今後の方針〕
よりよい音楽を目指し、団員の和を大切に、細くとも長い活動ができる合奏団でありたいと思います。



〔過去の演奏曲目〕

子供のための組曲、人形風土記、ダンスコンセルタントI四季、デイヴェルテイメント、大津絵幻想、日本楽器による幻想曲、箏四重奏曲(長沢勝俊)、尺八三重奏曲「鼎」、三つの詩(前田智子)他に委囀曲を含め多数。

〔第12回定期演奏会案内〕
平成3年3月10日吹田メイシアター小ホール午後2時開演、曲目→ダンスコンセルタントII 鳴門秘帖、箏三重奏曲他。入場料千円。

〔今後の方針〕
よりよい音楽を目指し、団員の和を大切に、細くとも長い活動ができる合奏団でありたいと思います。

らじかる・しりーず《ズバリ発言!》

武谷三男

日本音楽集団も、はじめは実験的な、邦楽器によるオーケストラの試みであったようだが、丁度四半世紀経て、発展し、世界的にも大きな評価を得て来た今日、もはや確乎とエスタブリッシュした存在になったというべきだろう。

体制並びに世間によるその評価は、代表者が「クン章」をもらわれたり、また「集団」が何かの賞を受けたことによっても示されている。

初めの頃は珍らしいという眼で見られていたが、もはや多くの固有のスタンダード・ナンバーをもっているし、初期からの作曲家のみならず、その後若手の洋楽の作曲家達にも、何の違和感もなしに「集団」のために盛んに作曲活動を行う人達が出て来た。

そうなってくると、恐らく「集団」としても従来通りでよいのか、という問題も出て来るし、マンネリを警戒する声も出て来るだろう。集団の定期刊行物の



前号に、池田逸子女史が指摘されたことなどについても、十分に考えておられると思う。

この辺で私と集団の個人的なつながりをふり返ってみよう。

今から十数年前、左幸子さんが一枚のレコードをかけて、「どう思うか、私はいまこの人の曲に大変興味があるのだが」と私に聞いた。私も「これは面白い」

と答えた。左さんはちょうど「遠い一本の道」という、国鉄労働組合の記念のための映画の企画をすすめておられていたが、その映画の音楽を三木稔さんに依

頼しようというときであった。左さんは三木さんと私と一緒に食事をしながら、話しをしましようにということ、御紹介下さったのが、三木さんにお会いした最初であった。

それよりも少し前だったか、私の友人高階正光氏が、われわれのパーティーに田村拓男氏をつれて来た。高階氏は齋藤秀雄氏の指揮教室の初期の弟子である。高階氏は自分でも指揮教室をひらき、長年の経験を総合して十年ほど前名著「指揮法入門」(音楽之友社)を書いた人である。田村氏は高階教室で指揮法を学んでおられた。高階氏の当時の紹介は田村氏はドラマーであり、指揮の才能がすぐれているとのことであった。ところでこの田村氏が、あとで私が、日本音楽集団の演奏会に招待されて行ってみると、和装で指揮棒をふっているのが驚いたものである。

日本音楽集団の演奏会は、はじめに聴いたとき、珍らしいだけでなく見事なものであった。様々な邦楽器の集団をよくここまでオーケストラに仕上げたものだと、感心させられたものである。というのは、各楽器はそれぞれ伝統的な音楽をもっており、邦楽合奏も長年の伝統をもっている。それと、まるで異なる伝統の西洋音楽流のオーケス

トラに仕上げていることの驚きであり、まず音階からして平均律であり、洋楽風な作曲がなされ、それが成功していることである。多くの苦心が払われて来たことが想像された。

私の少年期から行われていたのは和洋合奏、これは例えば弁士付きの無声映画の伴奏から、トーカーの音楽にもつかわれたものであった。さらに、宮城道雄氏が、箏を中心にして洋楽風な曲をつくったのが、革命的な印象として私の記憶にある。

邦楽器はそれぞれ音階的に強い制約があるのを、うまくつなぎ合わせて、よくどこまで完成度の高いものができたに驚き入ったものである。それから多彩なバラエティーある音楽をひき出すのに、作曲家達は逆に腕の見せどころとして張り切った興味を示して来られたのであろう。

成功したスタンダード・ナンバーも出そろい、もはやはじめて以来二十六年経つと、いろいろな問題が起ってくるものであろう。例えばより多くの初めての聴衆を獲得するためには、成功したスタンダード・ナンバーをやらねばならないし、そればかりやって居れば、常連に飽きられるだけでなく「集団」の前進という点から見ても思わしくない。また、実験的ないわゆる

現代音楽風な新作ばかりやるのでは大衆からはなれる。というような問題がある。

また楽器の開発も「集団」の出版にとつてシンボリックなのは、二十絃箏の開発にあつたようだが、他の楽器類も、大いに開発されてよいし、考えてはおられるようだが、あまり顕著ではないのではないか。

さらにも一つは、「集団」がプロのオーケストラとしてありうるか、という問題がある。西洋音楽のプロオーケストラの場合には、演奏収入とか、または、国や自治体所属、またはスポンサーがついて、団員やオーケストラ活動から何らかの給料が得られるという場合が多い。そうでないなら、その集団は、研究並びに発展のための集団で、いわば学問の場合の学会、研究会といった性格である。これが日本音楽集団の場合どのように発展するのかである。

話を少し移して、「集団」所属の有能な個々の団員によつてソロ、ないし少人数のアンサンブル活動が行われて来た。この活動を私は極めて大きな興味をもつて聴かせてもらっている。以前何回か、今はなきタワーホールで、主だったメンバーの集りによる、ソロないしはデュオの発表の会を興味深くきかして頂

いた。特にまたそれぞれの演奏家の方々の自作自演の発表会は、大いにたのしめたものである。

最近では例えば「花の一期生」の一人一人のリサイタルのシリーズが行われ、自作自演も伴うもので甚だ興味あるものであった。勿論ソロが中心だが、「一期生」同志の応援でデュオやトリオなどの組合せも含まれていた。それぞれの方々も今や楽壇の中堅として活躍しておられる一流人で、見事な演奏を展開された。私はこれらの小さな会でこよなく楽しませて頂いた。このような活動は、「集団」のメンバー各人の個性を強化するものである。オーケストラとは、単に一糸みだれずというのでは、ふくらみもなく面白味もない。各メンバーが個性をぶつけ合いながら、長期の練習の末、より高い統一が得られてはじめて、ふくらみのある境地に達する。そこが、従来の邦楽界の家元の大家がよく国立劇場などでおやりになる、多くのお弟子を従えての邦楽合奏とまるでちがうところであらう。

(物理学者)

モービル音楽賞受賞決定!

1990年度(第20回)モービル音楽賞受賞者が決り、8月初め新聞紙上で発表されました。

邦楽部門に日本音楽集団、洋楽部門に三善晃氏(作曲家)、奨励賞に漆原朝子氏(バイオリン)が選ばれました。

日本音楽集団への贈賞理由は次の通りです。

「日本音楽集団は昭和39年(1964年)4月、邦楽器の合奏により現代に生きる音楽を創造

することを目的として、長沢勝俊氏、三木稔氏ら作曲家と演奏家の集団として結成された。25年余にわたり定期演奏会をはじめ、地方自治体や文化団体、学校などの鑑賞教室、あるいは十数次にわたる海外での演奏会など活発な活動を続けている。

その間、多くの新曲や優れた演奏家を世に送り、十七絃、二十絃の箏をはじめ、多彩な楽器の合奏に大きな成果をもたらすな

ど、日本音楽の新生面を拓いた。」

受賞式は11月28日、5時半から一ツ橋の如水会館で行われ、賞金はモービル音楽賞第20回目になることを記念して、今年から200万円(今までは150万円)になるそうです。

第1回目の邦楽器部門受賞者山口五郎氏(琴古流尺八)に始まって、一昨年の平井澄子氏(現代邦楽)、昨年の米川敏子氏(箏曲)に続いて20年目を迎えた日

本での大きな音楽賞、モービル音楽賞を受賞できたことは日本音楽集団にとって大きな喜びです。1978年には音楽之友社賞を受賞していますので、音楽界で二つ目の大きな賞を頂くことになりました。これをステッ

「おめでとう 長沢さん!」

紫綬褒章受章を祝う集い(8/15)開かれる

この春、紫綬褒章を受章した長沢勝俊氏を祝うパーティーが、8月15日、東京青山会館「ふじ」の間で盛大に行われました。各界から140人を越す人たちがかけつけ、長沢氏にお祝いを述べました。

は、一部と二部に分れ、一部では長沢氏の音楽を形成する上で最も関係の深かった人形劇団ブークの上演と日本音楽集団の演奏があったこと。

「ふじ」の間には人形劇と演奏ができる特設ステージが設けられ、ブークは「ファリスト博士」

「二部分」と「黒の劇場」よりへなまはげ」を上演、間近で見る参会者はその迫力に圧倒され、川尻泰司代表の「ブークと長沢氏との係わり」の話や「人形劇」の話にも大きくうなずいていました。

「フアンタスマゴリア」(子供のための組曲)と組曲「人形風土記」からのピクアップ)を演奏、最後の五章では長沢氏自ら指揮をし、山本邦山、宮田耕八朗(尺八)、杉浦弘和(三味線)、白根きぬ子、砂崎知子(箏)、田村拓男(大太鼓)らのベテラン

が加わり雰囲気を感じました。二部では吉川英史、岸辺成雄氏の祝辞や30秒スピーチ(30秒たつと木魚やドラが派手に鳴る)やコーラスなどで次々に参加者が登壇、楽しく祝辞を述べ合いました。



30秒スピーチでお祝いをのべる
日本音楽集団のメンバー



挨拶する吉川英史氏



杉浦弘和氏の三味線でなつかしの第5章(子供のための組曲)



謝辞をのべる長沢勝俊氏



この一瞬にこの雄大を!
宝来・宝来羅漢

中国長年の歴史から生まれたゴングの一級品…宝来羅漢。
20年の技術の結集とクラフトマンシップから生まれた国産唯一のゴング……宝来。
ここに品質、デザインも変わり新たに登場。どちらもその音色は濃厚でクリエイティブな響きをもち、クラシック・ロックなど幅広いサウンドにマッチします。

サイズ	宝 来	宝来羅漢(中国武漢製)
	品番	品番
32" (81cm)	G-32	GR-32
36" (91cm)	G-36	GR-36
40" (101cm)	G-40	GR-40
	価格	価格
	¥118,000	¥144,000
	¥168,000	¥217,000
	¥220,000	¥325,000

30"以上のゴングは、従来の価格でスタンド・マレット付になります。

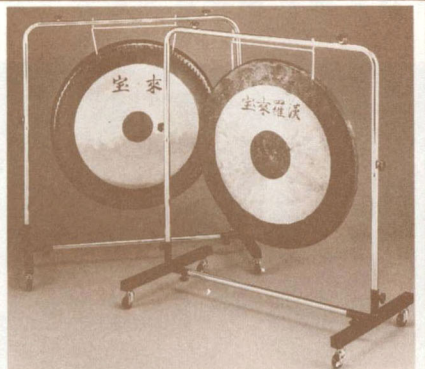
※宝来ゴングは、22"(56cm)より製造しています。別途カタログをご参考下さい。

(定価に消費税は含まれておりません)

株式会社 **アイダ楽器**

〒131 東京都墨田区押上2-42-1
☎03-614-4115

●カタログ希望の方は200円切手を同封して住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、お願いします。



日本音楽集団の演奏会から

第114回定期演奏会

6月19日(火)津田ホール

作曲家の個展①——新実徳英氏を迎えて——

石田一志

日本音楽集団の第114回定期演奏会は、新シリーズの「作曲家の個展」の第1回。今回は、得意の合唱曲と管弦楽曲を中心に、最近では幅広く邦楽器作品まで含め、活発な創作活動を繰り広げている新実徳英に照明が当てられ、彼の作品が特集された。これまで定期でも「集団」外の作曲家を対象にした作品委嘱や作品募集はあったが、いわば通り一遍でない「集団」との音楽的協力や対決をこうした外部の作曲家に要求したのは初めてのことである。その意味ではこのたびの新企画は画期的だったし、本格的に外部の力を活用して改めて「集団」の音楽的アイデンティティを確認し、また同時に「集団」の音楽的世界を拡張するという好企画と思われた。

とくに、今回の作曲家の人は大成功であった。委嘱初演曲を含め新実は自作三作品を並べたが、どれも方法論上の具体的な探求の後を示す意欲的な作品で、しかもそれぞれ性格も異なる音楽内容をもっていた。

例えば、二十絃箏の四重奏で演奏された「青の島」では、沖繩の旋法を旋律的にでなく脈動する音群を形成するように用い、そこにエネルギーと緊張感を表出した。「幽寂の舞」では、胡弓、尺八を徹底的にソリストスタイルに用い、その線に纏いつくように三味線、箏、十七絃のアンサンブルを組み合わせ、その高揚のなかから舞のリズムを発生させていった。特に、魅力があったのは、新作の「風を聴く」で、管楽器の線的、弦楽器の点的な纏いつきが創出する極めて重層



「風を聴く」(新曲・初演)を演奏し終わって(指揮・新実徳英)

的で持続的な緊張感を湛えた音楽であった。私には今回の企画で新実自身も「集団」という表現メディアを得て新境地を開拓したとも感じられた。他に柴田南雄、長沢勝俊の作品が併演されたが、旋律性と色彩性に富んだ長沢の「彫板」はこの日のもう一つの聴きものだった。

第115回定期演奏会

9月19日(水)バリオホール

邦楽器の祭典 パートII

富樫 康

日本音楽集団と日本作曲家協議会の共同主催による「邦楽器の祭典・II」が、昨年の成功に引続いて行われた。曲目は当協議会会員が応募した13曲(柳田作品以外は新作初演)で、今年は昨年にも増して目を瞠るものがあった。企画構成は三木稔、司会は山本直純である。

第一曲目、村尾幸映の《零五九零》(古都・奈良の調)(尺八1、二十絃箏2、十七絃1、打楽器2)は作曲者が奈良公園で、鹿が離合集散する有様を見て作ったものだが、情景描写的要素が多く、興味深い一方では、それに捉われすぎて、作法の配列や整理上の配慮がやゝ欠けた感がある。つぎ綿村松輝の《破念》(尺八3)は尺八の持ち味よりも洋楽作曲技法の披瀝に傾っており、そのために尺八の特性が余

り発揮されず、むしろマイナス効果となっている。西田由美子の《化身》は始めの尺八二重奏の部分は冴えないが、箏三人が加わり五重奏になると活気を呈した。だが終末は前半の繰り返し。塚谷晃弘の尺八、琴、打楽器のための《賦》は尺八に始まり、日本の太鼓(のち小太鼓代替)が入ると緊張感と日本的リズム感が湧き出る。それに箏が入り、三者三つ巴となって協奏する様は、日本芸術の呼吸や華やかさも加わって、調和の美を展開する。佐野芳光の尺八・三味線・十七絃箏のための《ロックバラード》は、ロックといっても一部は無調に近い所もあり、単にビートに乗るといいうのでなく、ロジカルな面もある。かといって解り難いわけではなく、曲想の変化する様子も面白い。



邦楽器の祭典パートⅡが終わって。司会・山本直純

が、もつと尺八の技法上のヴァリエーションを加えてもよかつたのではないか。柳田孝義の二本の尺八と十七絃のための《糸》は、尺八のむら息を多く使い、力のこもつた奏法が、冥想的書法の中にとりいれられており、重味がある。十七絃もかなり強烈な表現を行っており、よく研究している。全体に気合の入つたもので、格調の高い作品である。

川崎絵津夫の《阿修羅の如く》はシンセサイザーを交え、今夕

最多十人編成、指揮田村拓男。軟かく優しく全員が斉奏する所は夢心地のような気分になつたが、やがて高揚した所で終つてしまつた。まだその先が続くと思つたのに。小橋稔の《双双》(尺八2、打楽器)は笛と尺八が飛躍的に上下する音程で始まり、小太鼓が入ると更に小刻みな感を呈する。感情的でなく、計算で作られたような音楽。大政直人の《Evening Shadows III》は二十絃2と尺八2による

邦楽器による日米交流コンサート

5月28日(月) ABC 会館ホール

上元敏弘の《風紋》(尺八3、十七絃1)は技巧の披露というよりも、曲想の中に特殊技法が必然的に組み入れられる形で為されている。それにはかなり邦楽器の研究も行われたものと思う。風の様態というか、風の種々相が描かれた作品というべきか。金田潮兄の三面の二十絃のための《花片舞への前奏曲》は、日本音階の抒情美が、かなりきめ細かいアレグロテンポで描かれている。三面の二十絃箏が華麗に弾奏するさまにも惹かれる。見目順一郎の《竹木》は、古典尺八の精神性を重視して、それに現代の自由な表現法を投入した語法で作つた尺八三本の曲だ

外国人が日本と伝統的なものを学び、日本人以上に日本的なものに迫るといった光景は最近では、あまり珍しくもなくなりましたが、5月28日には「邦楽器による日米交流コンサート」(主催・日本音楽集団、後援・文化庁)が開かれました。

①クリストファー・遥盟・ブレイズデルとデビッド・レンフルー・ウイラーの尺八で《鹿の遠音》、②ローリー・カザス(尺八)とフィリップ・フレビン(三絃)で《秋霖》、③エリザベス・ファルコナー(箏)(十七絃・丸田美紀)の《ミッドナイト・レイン》、④ラニー・如月・セルゲイン(尺八)の《神保三谷》、⑤ブライアン山越(二十絃箏)と小島良喜のピアノで即興演奏、⑥ジョン・海山・ネブチューン(尺八)と日本音楽集団のメンバーで《空想》、⑦ネプチューン・カザス(尺八1)、ブレイズデル・

ウイラー(尺八Ⅱ)、ファルコナー(箏)と日本音楽集団のメンバーで古代舞曲によるパラフレーズより《前奏曲》、⑧グレッグ・コイル(マリンバ)と日本音楽集団打楽器メンバー(高橋明邦、黒坂昇、細谷一郎)で《マリンバ・スピリチュアル》、⑨ミシガン・パーカッション・アンサンブルと日本音楽集団メンバー(藤崎重康、打楽器・西川啓光・黒坂昇)で和田薫《楽市七座》



「楽市七座」を演奏中のミシガン・パーカッション・アンサンブルと集団のメンバー



フィリップ・フレビン(三味線)、ローリー・カザス(尺八)による《秋霖》

現代邦楽事情 — その8 —

邦楽ジャーナル編集長

田中隆文

世界の動きは新世紀に向け、加速をつけながら歴史的な事件を刻んでゆく。イラクのクウェート侵攻、東西ドイツの統一、それらの事件に関連して揺れ動く世界の政治・経済。事実は小説より奇なりと言うが、今は何が起きていても不思議のない世の中になってきた。

音楽も社会の変化と無関係ではいられない。というよりも、時代を先取りするのが音楽と言えるのかもしれない。世界的規模の人的移動に伴う情報の交流は、「ワールド・ミュージック」なるものを生み出し、いち早く国境を越えた。

今回の拙稿は、邦楽というジャンルをもう少し押し広げて、このワールド・ミュージックを中心に今の日本の音楽状況を探ってみたい。

「ワールド・ミュージック」

日本では二年前くらい前から、「エスニック・ミュージック」と

呼ばれる世界の民族音楽が話題を呼び始め、あつという間に世間に広がった。一般の音楽ファンが、今まで見向きもしなかった民族音楽に突然目覚めたかというところではない。ロック、あるいはジャズ、クラシック、といった音楽語法や音色にあきたらなさを感じ始めていた人々が、例えばテレビCMで流された「ブルガリアン・ヴォイス」などをきっかけにして新鮮な響きを持つ民族音楽に飛びついていったと考えるほうが妥当だ。

CDは、そのジャンルとしては前例のない売れ行きを示した。また、アジア・アフリカから民族音楽の演奏家たちが、次々と来日し、ブームとして新聞各紙に報道された。しかし、この時点では、まだ日本の民族音楽が取り沙汰されるに至っていない。

さて、昨年後半から今年前半にかけて、ランバダ旋風が吹きあれた頃から、ワールド・ミュージックなる言葉がエスニック

・ミュージックに取って代わって一般に流布し始めた（その過渡期にエスノ・ポップスという言い方もされた）。純粋な民族音楽も無国籍音楽もひっくるめて、この言葉がつかわれるようだが、簡単に言えば、欧米系以外のポップな音楽ということになると思う。

【民謡】

九月末頃、深夜にテレビをつけたら、偶然「ワールド・ミュージック」(以下WM)の番組を

本條秀太郎氏



三橋貴風氏(左)、細野晴臣氏



「上々颱風」

邦楽 Journal Hogaku ジャーナル

尺八・箏・三味線の
月刊イベント情報誌
includes information
in English

全国から集めたホットな
コンサート情報を中心に、
今注目の演奏家への本音の取材、
邦楽器の不思議な特性の解明、
邦楽界の諸問題等、
身近な邦楽情報を満載！
今、邦楽はおもしろい。



●バックナンバーのご案内

- 45号(90年10月)―宮田耕八朗
- 44号(90年9月)―見てわかる箏の歴史
- 43号(90年8月)―活躍する若人達
- 42号(90年7月)―江戸の音楽
- 41号(90年6月)―見てわかる三味線史
- 40号(90年5月)―ワールドミュージック
- 39号(90年4月)―演奏会のやり方
- 38号(90年3月)―伊藤多喜雄・国本武春
- 37号(90年2月)―邦楽CDリスト
- 36号(90年1月)―邦楽界に望むこと
- 35号(89年12月)―家元制度を考える(後)
- 34号(89年11月)―家元制度を考える
- 33号(89年10月)―邦楽の仕掛人たち
- 32号(89年9月)―どこがどう違う
- 31号(89年8月)―大衆と邦楽
- 30号(89年7月)―日本の音楽文化
- 29号(89年6月)―子供の音楽
- 28号(89年5月)―琵琶
- 27号(89年4月)―こんなアイデアいっかが？

定価 = 450円
年間購読 = 5400円
半年購読 = 2700円
(送料サービス)
★26〜16号までは定価350円

発行/邦楽ジャーナル

〒108 東京都新宿区高田馬場3-34-17
ベルメゾン宇野101 ☎03-360-1329
郵便振替口座：
東京3-361943 邦楽ジャーナル
★お求めは全国の和楽器店、
または直接邦楽ジャーナルにお電話を。

やっていた。女子大生ふうの三人娘が司会となつて、ゲストの座談の中にWMのプロモーション・ビデオや、沖繩調ポップスの喜納昌吉、民謡に目覚めた岡林信康のライブを折り交ぜながら、これからの音楽を考えると、この放送がNHKではなく、深夜族の若者をターゲットにした民放だったところに、ブームとしての証左を見る。ようやく、日本も西洋音楽と並列的に他の多くの国の音楽を聴くことができる時代が到来したようだ。

【日本に帰れ】

ここに至って初めて日本の民族音楽が云々されるようになる。この番組も喜納・岡林を日本のWMの代表と考えて登場させたのであろうが、そこで話題にな

ったのは民謡だけだった。日本独自のポップな音楽は一般の認識では民謡なのだ。いわゆる伝統音楽はそこには含まれていない。日本の民族音楽と伝統音楽の違い、考えたことありました？(しかし、純邦楽を日本のWMとして売り出そうと、キングレコードが10タイトルのCD「日本の伝統音楽」を作り、国内外に売り出すへ10月5日発売」という動きもある。これはどのような結果が出るか、一つの大きな試金石だ)

変わって行くことは伝統音楽の本質的なエネルギー…そして今、それ自身が本来の力を取り戻そうと目覚めた」と言っている。今、民謡調のこぶしをきかせながら歌うバンド「上々颯風」がマスコミを賑わせている。そのライブはビートルズ世代まで踊らせてしまうほど観客を魅了させる。土臭い音楽…戦後から若者に敬遠され続けてきたものが、国際社会の変化に伴って、今、新しい「形」で蘇ってきた。フランスのWMの仕掛人、マルタン・メソニエは「上々颯風」を「日本初のインターナショナル・バンド」と評価する。つまりと

な方向として日本の伝統音楽なり民族音楽に帰結するというところで、またそれがインターナショナルになり得るということをようやく証明し始めたのが、今の時代と言えそうだ。ただし、それは古典に帰ることを意味するのではなく、過去と未来の狭間に生きる「今」の私たちのメッセージを伝えることだ。これから日本の音楽シーンは徐々に(あるいは急速に)変わっていくだろう。ますます注目を集める邦楽(伝統音楽・民族音楽)だが、この世界も変わって行くに違いない。

小さな空間 大きな出会い サロンコンサート事情

工藤哲子

今回は、平成二年度上半期におけるサロンコンサートのなかから、「I期生シリーズ」と「若葉マークコンサート」を取り上げたいと思います。

日本音楽集団では、一時期休止したこともありましたが、正式入団するには、一定の研修期間、オーディション等を経なければなりません。この時期の団員を「研究団員」（現在は「研修生」と呼んでいます）

《ハツラツノ I期生シリーズ》
「I期生」とは研究団員一期生が入団したということで、今、三橋貴風(尺八)、野口美恵子(三味線)、田原順子(琵琶)、吉村七重(箏)、稲島素子(事務局)の五名の方が活躍されています。今年、吉村さんが七月十九日に第一夜として、「二十絃箏の夕べ」、田原さんが八月七日、第二夜「琵琶の夕べ」、野口さんが九月三日、「三味線の夕べ」を「I期生シリーズ」として開催しました。



出演者の中から田原さんにお話を伺いました。

田原 今回のコンサートは、いくつかプランがある中で、三人つまり三回以上のシリーズにするという事で仲間を募り、都合を付け合ったところ今回のメンバーになりました。三人集まっても、リサイタルでは出来ない事、普通はこんなこと出来ないけど冒険でやってみたいものを持ちよったらおもしろいのではないかと思います。それと、サロンコンサートは若い人達にやってもらおうということをやっています。最近今一つ停滞しているので、プランがあれば、いくらでもやれるという事を知

ってもらいたいと思いました。

アコスタディオでのコンサートはいつもいろんな意味で緊張します。同業者、仲間も多く来てくれることもあるのでしろうが。

ともかく、本人達はやってみておもしろかったし、そしてお客様にも恵まれて良かったと思います。

《新曲誕生。若葉マークコンサート》

「I期生シリーズ」に引き続き九月四日、若手団員による会が催されました。出演した西原貴子さん(笛)、白杵美智代さん(打楽器)に初めてのサロンコンサートの感想を伺いました。

西原 私は雅楽を中心に演奏してきた、今年集団に入って、楽器の編成、曲など初めてのことばかりで無我夢中のうちにコンサートが終わってしまった気がします。今回、私達のために長沢先生が「斑鳩へのみち」という新作を創って下さり、演奏できたことがとてもうれしかったです。



白杵 大学では鍵盤楽器を勉強していて、私も今年集団に入ってから初めてのことばかりです。サロンコンサートは、お客様が近くて威圧感を感じてとても緊張しました。音がよく響く会場で、



打楽器は響きすぎる位だったかもしれません。夢中で演奏してました。長沢先生の新曲、そして多くの先輩方やお客様の中で演奏できて良かったです。

I期生シリーズの第一夜と第三夜には、同期の三橋さんも出演しました。演奏家それぞれ個性と蓄積された余裕ある音創りとともに、同期生同志のなごやかさを感じるコンサートでした。

若葉マークコンサートは、坂口美香(三味線)、西原祐二(箏、外山香(箏)、西原貴子、白杵美智代の五名を中心に行い、若さあふれるコンサートでした。

日本音楽集団 1990年7月～1990年10月の主な活動記録

7月19日(木)

No.34サロンコンサートⅠ期生シリーズ
吉村七重二十絃等のタペ

8月4日(土)
古座川町公演
古座川町夏祭り野外ステージ

8月7日(火)
No.35サロンコンサートⅠ期生シリーズ
田原順子琵琶のタペ アコスタディオ

8月15日(水)
長沢勝俊染織装章受章記念パーティ

8月19日(日)
秩父横瀬音楽祭に出演 横瀬町民会館

日本音楽集団及び団員等の今後の予定

11月6日(火)

第116回定期演奏会 都市センターホール

11月8日(木)

「新実徳英の個展」に出演
バルテノン多摩小ホール

11月9日(金)

清水市立袖師中学校音楽鑑賞会

11月13日(火)

No.38サロンコンサートⅠ尺八/添川浩史
アコスタディオ

11月16日(金)

日立市学校音楽鑑賞会

11月18日(日)

大田幸子三味線コンサート
浜松駅ビル・メイワンサロン

11月22日(木)

昭和女子大学オープンカレッジ「琵琶の
しらべと語り」に坂田美子出演

11月24日(土)

紅葉川高等学校音楽鑑賞会
江戸川区総合文化センター

11月28日(水)

第20回モービル音楽賞受賞式 如水会館

12月2日(日)

山田明美・箏コンサート
豊橋ホリデイ・イン・ホテル

12月3日(月)

伊丹市中学校音楽鑑賞会
伊丹市文化会館他

9月3日(月)

No.36サロンコンサートⅠ期生シリーズ
野口美恵三味線のタペ アコスタディオ

9月4日(火)

No.37サロンコンサートⅠ若葉マーチン
コンサート(その4) アコスタディオ

9月6日(木)

NHK FM「邦楽百番」収録
9月18日(火)

9月19日(水)

第115回定期演奏会Ⅰ 邦楽器の祭典パート
9月27日(木)

12月4日(火)

ジャパン・モダン・コンサートⅢ 三橋貴風
+ウイリアム・アッカーマン+細野晴臣
芝増上寺大本堂

12月6日(日)

大島菜穂子箏コンサート
アコスタディオ

12月10日(月)

二十絃等による吉村七重等リサイタル
FM TOKYOホール

12月20日(木)

三橋貴風・尺八古典の会
日刊工業ホール

12月29日(土)

「TOKYO SOUND RENAISSANCE SPECIAL お
りひめ」に琵琶の坂田美子出演
スタジオ錦糸町

1月27日(日)～28日(月)

第19次海外公演(香港アートフェスティ
バルに出演)

1月31日(木)

「琵琶と鼓の語り」に坂田・前田文男出演
東急百貨店東横店東館5階特別サロン

2月5日(日)

第117回定期演奏会
パリオホール

2月8日(金)

関市中学校音楽鑑賞会
関市文化会館

2月22日(金)

栗友会合唱コンサートで「枕草子」(青島
広志作曲)を演奏

足立区立花畑第一小学校音楽鑑賞会

10月1日(月)～5日(金)、11日(木)～13
日(土)、15日(月)～19日(金)

栃木県学校巡回公演
10月14日(日)

奉天浪速女子高同窓会
赤坂プリンスホテル

10月20日(土)

つくば国際音楽祭に出演 ノバホール
10月25日(木)

福島公演
10月26日(金)

戸塚区民文化祭に出演 横浜市戸塚公会堂
10月30日(火)

仙台東高等学校音楽鑑賞会 イズミティ21

3月1日(金)

「ひなまつりコンサート」に出演
水上温泉上水館

3月2日(土)

邦楽鑑賞会「尺八・三橋貴風を迎えて」
飛騨古川町民会館ホール

3月16日(土)

葛飾区公演
3月18日(月)

サントリ音楽財団コンサート「諸井誠」
に三橋が出演 大阪いずみホール

3月21日(木)

宮田耕八朗・古川郁代ジョイントリサイ
タル 熊本メルパルク

3月28日(木)

東京都響定期演奏会で三橋・吉村・田中
悠美子が「序の曲」に出演
サントリホール

3月31日(日)

山田明美等コンサート
名古屋今池ガスホール

4月3日(水)～11日(木)

東京都響カーネギーホール100周年記念コ
ンサートツアーに三橋・吉村・田中が参加

4月12日(金)～5月4日(土)

三橋・吉村ジョイントリサイタルツアー
を、USA、メキシコで行う

5月13日(日)

第118回定期演奏会Ⅰモービル音楽賞受賞
記念コンサート 津田ホール

IOC(オリンピック)総会の音楽を担当

バルセロナ・オリンピックの
次の開催地を決めるオリンピック
ク総会が9月18日、新高輪プリ
ンスホテルで開催され、近代オ
リンピック発祥の地、ギリシャ
のアテネが有利という大方の予
想を覆してアメリカのアトラン
タに決定したことは記憶に新し
いところですが、総会の音楽は
日本の伝統楽器でということ
日本音楽集団が担当しました。

曲は三木稔作曲の「四季」ダ
ンス・コンセルタントⅠを使用
先ず各国委員が登場する約4分
のBG音楽には一章「踊る春」
をエンドレスで演奏、いよいよ
サマランチ会長が登場する場面
では三章「秋、そして」の冒頭

部分に手を加えて、箏群のグリ
ッサンドに能管のヒシギと太鼓
で決める絶妙なファンファーレ
に仕上げ、調印式の静かなBG
には二章の「水巡る」がピツタ
リ、エンディングには「エプロ
グ」の最後の部分で華やかに
閉じるという音楽の構成と颯爽
とした演奏はIOCスタッフを
スッカリ喜ばせ、感心させてし
まいました。

演奏場面も含めた総会の様子
は、世界の35局を結んだ衛星テ
レビで全世界に実況中継されま
したが、45億人の人たちが見て
いた計算になるそうです。

第3回子ども邦楽まつり

「邦楽教育を推進する会」では価
値ある和楽器や邦楽の存在を広く
世に訴え、その普及を図る活動の
一助として、毎年「子ども邦楽ま
つり」を開催しています。

毎年30を越える団体が参加し、
互いに演奏を披露し、交流を深め、
子どもたちの邦楽の輪が広がって
います。

主催 邦楽教育を推進する会
(財)東京都文化振興会
(財)板橋区文化振興財団

後援 板橋区教育委員会
日本の伝統音楽を守る会

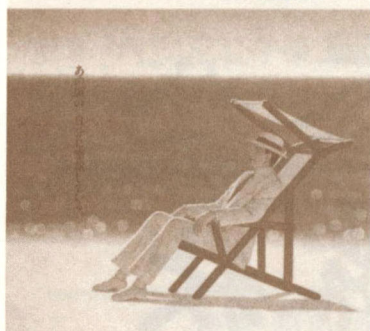
日時 平成2年12月23日(日)
10:30～17:00

会場 板橋区立文化会館大ホール
出演資格 原則として5～6名以
上の小・中学生の団体(高
校生を含む可)

問合せ 邦楽教育を推進する会、子
ども邦楽まつり実行委員会
〒166 東京都杉並区成田東5
-15-22 音楽事務所内

積立介護費用保険

新発売



健康はご家族の大きな財産。
だから備えが必要です。

- ※ 損害保険の安田火災はあなたの暮らしをワイドに補償致します。
- ※ あなたの保険設計は明和損害保険企画におまかせ下さい。

日本音楽集団指定損害保険代理店
明和損害保険企画

RM 小笠原 明男 オフィス ☎937-0547
安田火災海上保険(株)城北支社 ☎962-7311

日本音楽集団の 海外公演をお世話 しております。



郵船航空サービス株式会社

渋谷旅客営業部

〒150 東京都渋谷区道玄坂1-13-5

鈴木本館ビル2階

電話(03)780-2082

団体科：佐藤/木下/熊谷

真山

日本の響
真山銘尺八

〒561 豊中市服部本町5丁目5-6 TEL(06)863-0564

デザイン
永谷 繁山

INTERNATIONAL MUSIC SERVICE ims

アイ・エム・エス

●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻2-21-25

オリオンシャトー1F

PHONE. 03-397-2292

琴・三絃

一藤

ローン・下取り・修理致します。

[八千代店] 〒276 千葉県八千代市
八千代台東3-24-4
☎0474-84-8859

[調布店] 〒182 東京都調布市上石原
1-6-14
☎0424-84-0092

尺八

露秋

西田露秋

〒794 今治市新谷甲798-1
電話 (0898)48-1097・1257

信 頼 の 品 質

箏 三味線

◆ 田波楽器株式会社

〒537 大阪市東成区
東今里二丁目4-6
TEL 06(976)1885
FAX 06(974)9632

邦楽器全般

わらびみや 楽器店

〒598 泉佐野市栄町6~11
TEL 0724(63) 1246

日本音楽合奏フェスティバル ～和楽器スーパーセッション'91

篠笛、能管、笙、尺八、胡弓、琵琶、三味線、箏、十七絃、打楽器、語り、唄による……今、新しい出会いのとき!

'91年2月24日(日)午後3時
名古屋芸術創造センター

■メンバー募集中! 参加資格自由

●お問い合わせ—水野正徳 ☎0568-31-2775
〒486愛知県春日井市知多町2-144

曲目 ■秋の一日(長沢勝俊)
(予定) 鳳来(畦地慶司)

ネブチューン海山作品より
平家物語より(村田誠也編曲)
日本のうた(平野茂一郎編曲)
ドリアンダンス他(宮城純一)
ボレロ<ラベル>(高橋英郎編曲)



創業・昭和8年

お琴・三味線の琴栄

●東海一の実績を誇る店



御琴・三味線専門
琴栄楽器店

代表・増田康壽
〒500 岐阜市司町九(大学病院前)
TEL <0582> ☎1826 代



笥山銘尺八

琴古、都山各寸美麗仕上
特製品煤竹も各寸揃います。

木村笥山

〒379-16 群馬県利根郡水上町谷川437

TEL.0278-72-4108

最高の品質

常盤
強力®
琴系

サエ グサ
三枝商店

—お求めの音づくり—

タクザン

澤山銘尺八

尾崎沢山

〒108 東京都港区芝浦4丁目2-22

東京ベイビュウ218 ☎08-5476-4277

田町駅(山の手線・京浜東北線)歩9分

三田駅(地下鉄・三田線・浅草線)歩12分

〒005 札幌市南区澄川4条9丁目4-10 ☎011-582-8119



日本の伝統音楽を守る会 第4回定期演奏会 来春3月中国南京市にて開催 参加希望者募集中!

日本の伝統音楽を守る会第四回定期演奏会は来春三月、中国南京市にて国際親善をかね「日中伝統音楽合同演奏会」として開催。

日中演奏家による演奏会、交歓会、胡弓講習会、南京市長より参加者全員に日中親善の感謝状の贈呈。

5泊6日のゆったりした日程で上海・蘇州・無錫・鎮港・南京の観光が楽しめます。

参加は演奏団体・個人を問わず、演奏会鑑賞と観光を目的に一人でも参加できます。

日時 平成三年三月三日(日)

会場 中華人民共和国南京市人民大会堂

旅行日程 平成三年二月二十八日～三月五日

参加費用 一八〇、〇〇〇円

(旅費、宿泊、全食を含む)

主催 日本の伝統音楽を守る会

後援 中華人民共和国南京市

協力 南京芸術学院、蘇州民族楽器、

(株)邦楽社、ヤマキ産業(株)、

邦楽ジャーナル、(株)大瀧邦楽

器、ほか申請中

申込先・お問合せ

〒166 東京都杉並区成田東五―一五―二二

司音楽事務所

☎〇三―二二〇―二〇四〇

永い伝統と経験から創り出される
豊富な「止水の和楽器」



新発売
明鏡笛(しの笛)
(正律管)
ベース三味線

止水の和楽器 発売元

明鏡楽器

〒130 東京都墨田区横川4-1-2 ☎(03)623-6349(代表)

応援します「邦楽現代」

和楽器専門店

老舗

KK金善楽器店

京都市東山区大和大路通り四條下ル二丁目亀田町五七

TEL 五六一―二九四〇 五四一―一〇九三

(075) 五二五―一三七五(夜間)

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

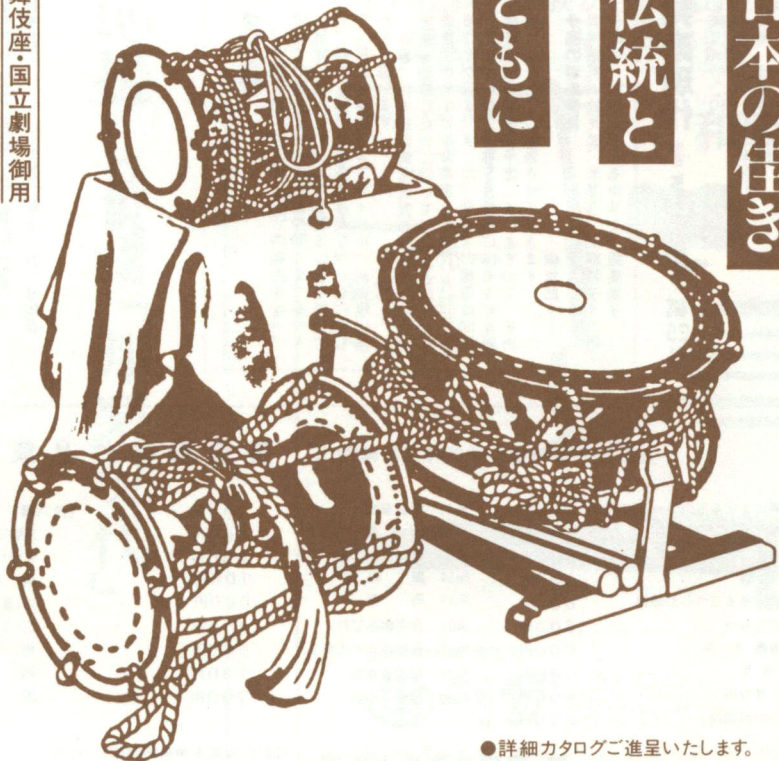
琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(792)8481 FAX(792)8437

日本の佳き

伝統と

ともに



歌舞伎座・国立劇場御用

能楽長唄用

太鼓・小鼓

創業文久元年／宮内庁御用達

株式会社 宮本卯之助商店

本店 ● 東京都台東区浅草六丁目一番十五号
TEL 電話(03)87414131(代)

西浅草店 ● 東京都台東区西浅草二丁目一番一
FAX(03)87516602

銀座店 ● 東京都中央区銀座七〇八コリド街
TEL 電話(03)84412141(代)

TEL 電話(03)57216311(代)

●詳細カタログご進呈いたします。

日本音楽集団推薦 二十絃箏 琴光堂和楽器店 TEL(792)8481 FAX(792)8437